甲陽学院中学校

算数

2 日間にわたって試験を行います。両日とも時間内に全問解答するには、かなりの計算力や、考えを組み立てる力を必要とします。結果のみを答える問題以外は、解答欄に結果を記入するだけでなく、その結果を導いた道筋がわかるように計算過程などを書いておいてください。結果が間違っていても、部分点を与えることがあります。定型問題に正解することはもちろん大切ですが、日ごろから推理し、予想することを心がけてください。平面や空間の位置関係を想像することも大切です。

国語

両日とも、説明文 1 題、物語文（随筆を含む）1 題の計 2 題を出題します。記述問題は思考力を問う内容であるとよくいわれますが、問いのなかには基礎的な知識を問う問題ももちろんあります。したがって、その準備もきっちりとしておきましょう。また、得点を積み上げるためには、読み取ったこと、考えたことを上手に伝達・表現する力が必要です。ふだんから他者がどう読むかという視点での答案作りを心がけましょう。

理科

朝永振一郎博士（1965 年ノーベル物理学賞受賞）のことばに次のようなものがあります。
「ふしぎだと思うこと これが科学の芽です よく観察してたしかめ そして考えること これが科学の茎です そうして最後になぞがとける これが科学の花です」
理科の勉強はこのことばに尽きます。教科書の内容はもちろん大事ですが、日ごろから身の回りのこと、ニュースなどをはじめ、森羅万象に目を向けることを心がけましょう。初めて出合ったような問題でも、必ず糸口やヒントが隠されています。問 1 がわからなくても、問 2 は答えられることもあります。部分点がつくこともあります。問題全体を見渡す冷静な目を持つことを忘れないでください。

東大寺学園中学校

算数

試験時間は 60 分。100 点満点で採点します。算数では、答えを書く欄だけでなく、考え方や図・式をかくことのできる欄が大きく用意されている問題もあります。そのような問題では、答えが間違っていたり最後まで結論を出せていなかったりしても、途中までの考え方が正しく、わかりやすく説明されていれば部分点を与えます。

出題の範囲については、【計算問題、割合、濃度、速さ、平面図形、空間図形、場合の数、整数】のうち、複数の分野から例年出題しています。小学校の指導要領の範囲の学習で解ける問題を、本校の過去問の流れをある程度踏襲しながら作成しています。基本的な内容はもちろんですが、それを応用して発展的な内容の問題を解くことができるかについても評価したいと考えています。受験生の「計算を正確に行う力」「問題文を正しく読みとる力」「平面および空間の図形を把握する力」「考えを論理的にまとめる力」などを総合的に判断できるような試験となるように努めています。

国語

試験時間は 60 分。100 点満点で採点します。漢字と語句の問題、短い文章の読解問題、説明文の読解問題、小説（随筆）文の読解問題の 4 題を出題します。

漢字の問題については、小学校 6 年終了までに学習した教育漢字から出題します。語句の問題については、ことわざや慣用表現などの意味を出題していますが、書き取りと合わせて出題することもあります。短い文章の読解問題では、新聞の記事や雑誌のコラム、エッセイなどさまざまなジャンルの短い文章を用いて、主に語句や読解の基礎力を問います。

漢字および語句の問題は、小学生の語彙に配慮しながら出題していますが、選抜試験の性格上、前後の文脈をよく読み込んだうえで正答を導き出さねばならないものが含まれます。問題形式はさまざまですが、パズル形式の組み合わせや、しりとり形式などでの出題はしません。あくまで文章のなかで意味を考えながら答える問題になるよう心がけています。説明文の読解問題では、論理展開を把握して筆者の主張を正しく読み取れているかどうかを中心に問います。小説（随筆）文の読解問題では、主として心情把握を問います。また、記述力を重視し、50～100 字程度で説明する問題を必ず出題します。

理科

試験時間は 50 分。100 点満点で採点します。毎年 6～8 問の出題です。2026 年度は 7 問でした。その内訳は、生物分野 2 問、地学分野 1 問、化学分野 2 問、物理分野 2 問でした。

問題を作成するにあたっては、教科書で扱われている事項、小学校学習指導要領の範囲の学習で解ける問題を出題するようにしています。ただし、自然現象について皆さんが持っている興味・関心の程度に合わせて、発展的な学習の範囲を問い掛けることもあります。小学校で扱われる実験や観察、および、その方法や解釈についても十分に復習しておいてください。また、新聞やテレビなどで報道される自然科学に関係するニュースにも関心を持ってほしいと思います。

小学校で学習した内容の理解を重視しながら、日ごろから自然科学の現象に興味・関心を持

つ生徒や、暗記だけでなく論理的な思考もできる生徒が良い成績を取れるような試験を実施するように努めています。
発展的な内容を扱うような問題では、初めに、その考え方を説明することが多くあります。解答上のヒントや、問題を解くときに必要な条件などを含めて説明していることが多いので、読み落としのないように注意してください。

社会

試験時間は 50 分。100 点満点で採点します。例年、大問 4 題を設け、50 問程度の出題となっています。
例年の大問を分類すると、地理分野、歴史分野、公民分野、総合（地理・歴史・公民の混合問題）がそれぞれ 1 題です。小学校教科書に基づいて問題の作成を行っています。ただし、近年、社会的に注目を集めた時事的事柄について出題することがあります。
小学校社会科の内容について、全体を余すところなく、基本的知識が習得できているかどうかを見たいと考えています。基礎的知識の習得とともに、その知識を活用する力を見たいと考えています。たとえば、地理的分野では図表を多面的に分析し、読み取る力、歴史的分野では事項の背景や結果に結びつける力などです。

灘中学校

算数

2 日間にわたって出題されます。これまで第 1 日は結果のみを答える問題をおよそ 13 題前後、第 2 日は記述式の問題を中心に 5 題を出題してきました。試験時間はいずれも 60 分を原則とします。時間内に全問解答するには、相当の学力が要求されます。問題文の長いものもありますから、読解力も身につけておきましょう。記述式（第 2 日）の問題の答案は、結果しか書かれていないときは、その問題の配点に対し満点を与えることはありません。反対に、結果が間違っていても説明が途中まで正しいときは、部分点を与えることもあります。答案作りの練習もしてください。

市販されている問題集には見当たらない目新しい問題も出題するようにしています。そのような問題にも即座に対応できる柔軟な思考力が必要です。図形問題は、平面図形はもとより空間図形を正確にイメージする力を問われるものもあります。

学校の授業を大切にし、日ごろから研究心を持って物事を広く深く究め理解しようとする努力をしてください。

国語

2 日間にわたって試験を行います。試験時間は、第 1 日が 40 分、第 2 日が 70 分を原則とします。第 1 日は、文章問題 1 題とことば（漢字・ことわざ・慣用句・外来語・短歌・俳句など）の問題。基本的なもの、少しレベルの高いものなどいろいろ形式を変えて出題します。ふだんから意識して正しく日本語を使い、覚えるように心がけるのはもちろんですが、豊かな広がりを持つ日本語の世界への興味を深めてください。

第 2 日は、文章を読んで内容を考える記述中心の問題。詩も必ず出題されます。世の中のいろいろな現象に対する見方や意見を示してくれるのが文章です。作者がどのようにして、何を訴えようとしているのかを常に意識して読み取ることが大切です。主語・述語、指示や接続のことば、語の省略などにも気をつけて読んでください。

理科

＜ふだんの心がけ＞

　小学校の授業・教科書を大切にしてください。身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つようにしましょう。簡単に実験できることは実際にやってみましょう。

＜入試問題を解くにあたって＞

・見たことがないような問題でも、考えればわかるように工夫して出題しています。また、どこかで見たような問題であっても内容はまったく違うかもしれません。

・「解き方」とか「公式」とかの先入観にとらわれず、問題文をよく読んで、その場でしっかり考えてください。

・与えられた手がかりによく注意すること、問われていることに応じた答え方をすることがポイントです。

明星中学校

算数

計算問題・文章題・平面図形・立体図形を、毎年できるだけ偏りなく出題しています。答えのみを解答する形式なので、計算ミスや転記ミスに十分注意してください。

国語

文章読解問題、「思考力・判断力・表現力」を問う問題、漢字の書き取りを出題しています。字数制限のある問題では、少なくとも８割以上書いてください。また、字数をオーバーした場合や、誤字・脱字があった場合は減点になります。注意してください。

理科

物理や化学の分野では、計算問題もあり、解くのに時間がかかることがあります。できるものから解いていく習慣をつけてください。実験や観察の問題に対応するには、教科書の表・図・グラフも、注意深く見ておく必要があります。

社会

歴史・地理・公民の３分野からまんべんなく出題しています。いわゆる“用語”“語句”を覚えることに終始するのではなく、地図・グラフ・統計などを注意深く見るようにしましょう。また、現在の社会および世の中の動き、つまり時事問題にも関心を持ってください。

洛星中学校

算数

計算力をしっかり身につけてください。いつも出題するような計算問題を速く正確に解けるよう、日ごろからよく練習しておきましょう。つるかめ算・和差算・ニュートン算といわれるような、解き方の筋道に一定の定石のある問題も出すことがあります。目新しさはなくても、限られた時間内にきちんと解答するのはけっして簡単なことではありません。割合の問題の考え方は、小学校の算数のなかでも極めて大切なものです。速さの問題などを通して、割合の考え方をしっかりと身につけてほしいと思います。式を書くことによって、考え方の筋道を整理していくことができます。日ごろから答えだけではなく、式を書くように心がけてください。問題に応じて、臨機応変にいろいろと工夫することはとても大事です。一度解いた問題でも、どうすればもっと上手に解くことができるかを考える習慣をつけましょう。

国語

読解と表現を二本柱として、長文をじっくり読み通すこと、みずからの考えを記述して答えることを重視しています。小説の主人公の人物像や行動を読み取ることは、読者であるわたしたちの生き方や経験にかかわっています。日ごろから小説など数多くの文章を読むなかで、人の心の動きや考え方について学ぶようにしてください。漢字の書き取り問題では、残念ながら、字体の乱れた、読めない字を書く人がいます。とめ・はね・はらい・文字の形をきちんと意識して、ていねいに書く練習を怠らないでください。いいかげんな文字には点数を与えません。選択肢問題、とりわけ内容読解の問題では、傍線部の周辺の数行程度しか見ないで答えている人が多いようです。どの問題を解くうえでも、全文をしっかり読み通すことが基本になります。記述問題では、読むことに十分な時間をかけて、ていねいに考えて書いてください。特に、解答欄が大きい問題は、読み取って考えたことを自分のことばで存分に書いてほしいと思います。傍線部の前後の引用で済ませたり、自分勝手な思い込みでストーリーを作ったりしてはいけません。記述問題の配点は、全体の半分を超えることもあります。自分のことばで書いて表現する練習を十分にしてください。それには、文章を自分の頭と心とでしっかり読み通すことが絶対に必要なのです。

理科

基本的な用語や法則、ものの名称や数値などはしっかり覚えたうえで、それらを使って説明や計算ができるようにしてください。教科書に出てくる実験や観察は、結果を暗記するだけではなく、器具・方法・条件などにも注意し、なぜそうなるのかを理解するようにしましょう。また、学習した内容は、現実の身の回りで起こっている現象と関係づけて理解するようにしてください。図やグラフは、正確に読み取るだけでなく、描くこともできるようにしておきましょう。理科以外の教科などで学んだ知識も、理科に応用して、関連付けて理解できるよう、大きな幅を持たせた勉強をしてください。新しいことを知る、わからなかったことがわかるようになる、解けなかった問題が解けるようになるということは楽しいものです。その楽しさを失わないで、常に興味を持って理科を勉強してください。

社会

歴史・地理・公民のいずれの分野からも出題しています。6 年生の教科書では最後に扱われる現代の歴史や国際社会に関する内容も範囲に含みます。教科書は必ず最後まで目を通し、しっかりとした知識を得ておくようにしてください。また、日々のニュースや国際情勢について関心を深めておくことも大事です。

知識をきちんと身につけるということは、単にたくさんの事柄を覚えることではありません。それぞれの意味をしっかりと理解していくことです。覚えておかねばならないさまざまな語句や人名については、いろいろな事柄と関連付けて覚えていけば変な混同や誤字はなくなります。また、教科書を「眺めて覚える」のだけではなく、みずから手を動かして「書いて覚える」「自分なりに表にまとめて整理する」といったことも学習には効果的です。語句そのものも、しっかり書けるようにしてほしいところです。語句について、漢字で書ける部分はできるだけ漢字で書く努力もしてください。

本文や設問文を正確に読み取ることも重要です。記述するべき解答のポイントを正確に押さえるうえでも、国語力が必要です。

六甲学院中学校

算数

例年、A 日程、B 日程とも同じ形式で、基本から応用まで幅広い分野から出題しています。六甲学院中学校に入学するにはぜひ解けて欲しいレベルの問題を集めています。わたしたちは、考えることを楽しいと思うような生徒に来てほしいと思っています。

ふだんの勉強では、まずは計算力や基礎的な事柄を着実に身につけておいてください。さらに、単純に答えだけを求めるのではなく、答えを出すに至った考え方を採点者に簡潔かつわかりやすく記述する練習をしてください。例年、両日程とも 1 枚目の問題は答えだけを書きます。2 枚目の問題には答えだけではなく、式や考え方なども書くように指示していますので、問題文で与えられた以外の数値を答案に書くときには、それをどうやって求めたのか式や図を用いながらことばで説明してください。途中の説明が正しければ部分点を与えています。逆に、わたしたちに意味が通じないような答案は減点しています。考え方を重視する観点から、説明がなく答えしか書いていない答案や、答えが合っていても考え方が間違っている答案、作図問題で定規やコンパスを使用していない（指示に従って解答していない）答案は点数を与えていません。

入学してからも、確実な計算力、基礎的な事柄を身につけるために反復練習する地道さ、難問に対する粘り強い思考力、考え方をわかりやすく他人に伝える記述力を磨いていきます。

国語

例年、説明文（評論文）・随筆・物語文（小説）などの文章を偏りなく出題しています。漢字の書き取りと記述式の設問は多く出題していますので、「書く」練習をしっかり積んでください。本文全体の趣旨を問う記述式の設問を中心にして、本文中からの抜き出しや、キーセンテンスの要約、条件作文など、さまざまな設問を配していますが、いずれも文章の内容を的確に読解する能力を試していることでは一致しています。ふだんから「確かな読解力」を身につけるように努力してください。また、長い文を書くときに、「て」「に」「を」「は」の使い方や、主語と述語の対応がおかしなものが散見されます。自分の書いた答案を必ず読み返す習慣をふだんからつけておくようにしてください。

記述問題の答案を通じて「粘り強さ」を見ています。あきらめずに取り組んでほしいと思います。

理科

例年、物理・化学・生物・地学からそれぞれ 1 題ずつ、計 4 題を偏りなく出題し、そのなかに、基本知識問題、計算問題、作図問題、読解思考問題などを散りばめています。

計算問題の途中式を試験問題のほんの小さな余白にいい加減に書く受験生がいますが、もっと大きな余白や試験問題の裏などを使って、ていねいに、後でしっかり見返せるような計算をしましょう。また、一見して難しそうな計算問題をすぐにあきらめてしまって解かない受験生がいますが、これらの問題では大きな点差がつき、合否にも大きく影響するところです。六甲学院中学校合格を確実につかみ取りたいならば、ふだんから難問にもへこたれずに粘り強く取り組み、計算力や思考力、読解力を養ってください。

作図問題はとにかくていねいに取り組むように心がけましょう。どのようにかいたのかを判別できないような作図の答案は、それだけで不正解になります。点や線の少しのずれなども減点の対象です。ふだんからていねいな作図を心がけていないと、本番の試験でいきなり正確にかけるようにはなりません。
読解思考問題や計算問題などでは、問題文の指示や条件をよく読んでいない答案が見られます。問題文をていねいに読むことは、試験を受けるときには絶対不可欠の基本的な心構えのはずです。落ち着いて、ていねいに問題を解く習慣をふだんから身につけておきましょう。

大阪女学院中学校

算数

過去問で対策をしっかりやってきてください。基本的な計算が、速く正確にできることが大切です。また、平面図形の面積、速さ、割合などを幅広く学習してきたかどうかや、変化する二つの数量のグラフを正しく読む力があるかなども試されます。日ごろからしっかり考えて、規則性を見つける姿勢などを身につけましょう。なお、字はていねいに書かないと、減点や不正解の扱いになります。

国語

過去問で対策をしっかりやってきてください。ただし、以前の過去問題にある百人一首からの出題はありません。主に小説や随筆から多く出題がされる傾向があります。そのような文章を読み、慣れておきましょう。読解のこつは、全体を把握したうえで、個々の問題に当たることです。解答する際は約束事に注意してください。漢字は、「とめ・はね・はらい」まで正確に書けるようにしましょう。字はていねいに書かないと、減点や不解答の扱いになります。また、意味のわからないことばがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけることも大切です。ことばはすべての勉強の骨となる重要なものなので、日本語だからと安易に考えないでください。また、机上だけで国語の学習をするのではなく、日常の生活でも、ことばを大切に用いていくようにしましょう。

理科

過去問で対策をしっかりやってきてください。理科はすべての学問に共通する探究心や視点を養う科目です。日常の生活に照らし合わせながら、さまざまな分野の学習をしていきましょう。教科書にあるすべての実験・観察の図はよく見ておきましょう。これは、単なる暗記ではなく、それを見て考える力が試されます。なお、字はていねいに書かないと、減点や不解答の扱いになります。

社会

過去問で対策をしっかりやってきてください。地理・歴史・公民の各分野から、幅広く出題します。小学校で習う範囲のものなので、しっかりと覚えましょう。学んだことが、これからの自分の生き方にかかわってきます。わたしたちは、過去の情報や身近な情報から未来を創造していくのです。思考学習を心がけてください。また、読めない文字は採点しません。試験中は、焦らずに、答案の文字はていねいに書いてください。

甲南女子中学校

算数

基本的な問題を確実に解ける力を重視しています。途中の式・計算や、考え方を表す図には部分点があります。単位を書き忘れた場合、約分をしていない場合、式・計算が必要な問題で答えのみを書いた場合は減点とします。A 入試 2 次は、A 入試 1 次・B 入試と比べて、難度をやや高く設定しています。過去問を繰り返し練習しておいてください。

国語

例年、文学的文章と論理的文章の長文 2 題を出題しています。文章の正確な読解力を要求し、さらに語彙力や表現力も測るようにしています。具体的には、紛らわしい選択肢をきちんと読み解くことが必要です。また、記述問題も必ずあるので、記述力も求められます。誤字・脱字は減点とします。書き取りの漢字については、ていねいに書くように心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野から出題し、配点はそれぞれ 20～30%になるようにしています。グラフの問題や思考力を問う問題を数問出しています。用語を問う場合、教育漢字で書くべき用語は正しく漢字で書くように気をつけてください。答えとその理由を記述する問題では、答えのみが正しければ答えのみの点を与え、答えが間違っている場合は 0 点とします。小学校で習った基本的かつ重要なことを身につけておいてほしいと思います。テレビや新聞などで話題になった科学的な現象や、環境問題・科学技術に関するニュースについても理解を深めておいてください。

社会

地理・歴史・公民の全分野から出題し、配点はそれぞれ 30～40%になるようにしています。解答は、小学校で学んだ教育漢字を使用して答えることを求めます。その際、漢字の間違いやひらがなでの表記は減点の対象となります。地理では、地図・グラフ・写真などを使用した問題が高い確率で出題されます。歴史は、全体の流れをつかんでいるかを重視し、全時代にわたった問題を出題するように心がけています。公民では、現実に起こっている問題について問うことがあります。新聞にも目を通しておいてほしいと思います。どの分野も、基礎学力をしっかり身につけたうえで、身近で起こっている出来事にも理解を深めておいてください。教科書の内容がきちんと理解できているかどうかを測っています。

四天王寺中学校

算数

計算力はすべての問題の基本なので、速く正確にできるように、しっかり練習しておいてください。また、計算の工夫が自然にできるように、ふだんから心がけて取り組むことが大切です。合格点を取るために、計算問題は式を眺め、特徴をつかんでから、落ち着いて計算し、全問正解をめざしましょう。また、小問や大問の①②は基礎的な問題が多いので、日ごろから数多く基礎を練習し、迅速かつ確実に正解できるようにしておくとよいでしょう。例年、大問の文章題では、型にはまった問題は少なく、公式や解法の丸暗記では解くことができません。問題文をしっかり読んで内容を十分に把握したうえで、図を描いたり、書き並べてみたり、表・グラフやダイヤグラムを作って利用したりするなどして、その場で解法の糸口を自分で見いだせるよう、思考力を養っておきましょう。平面図形では、図形を並べ替えて面積を読み取ったり、裏返したり、折り返したり、対称性を利用したりするなど、問題によってどこに注目すればよいかを見極められる目を養っておくとよいでしょう。立体図形については、立体を積んだり傾けたり切ったりして、頭の中で考えられるようにしておくことが大切です。必要な断面や展開図も自分で描けるようにしておきましょう。本校の過去の問題を見ればわかるように、けっして難問・奇問（小学校の学習指導要領の内容を超える分野）を練習する必要はありません。標準レベルの問題を自分で十分に理解し、納得して解くという勉強の姿勢が大切です。

国語

今後の大学入試改革を見据えたうえで、本校では現代社会の問題にかかわる文章を出題する傾向があります。小学生の話しことばにはない、少し古い文章語や抽象的な概念を表すことばを用いた文章です。このような文章に慣れるために、小学生でも読める評論や文学的な小説などを意識して読んでください。また、新聞のコラムなどを読み、現代社会の問題にも興味を持ってください。語彙が増えるだけではなく、知識も増え、大人の文章にも親しむことができます。

長文も出題されますので、しっかり慣れて、速く読めるようにしておいてください。問題文が長いということは“具体例→筆者の主張”“登場人物の心情の変化”を読み取る力が要求されるということです。演習をするときには記述問題もきちんと書いて“時間内に”解答する力をつけましょう。傍線部の近くだけを見て“とりあえず解答する”のではなく、傍線部のことばの意味、設問で求められていることを意識して、時間を計って解答する練習を積むことをお勧めします。

理科

例年、物理・化学・生物・地学の 4 分野から、ほぼ均等に出題しています。できるだけ偏ることなく、4 分野をまんべんなく勉強してください。本校の入試では、観察・実験の結果を示した文章や表・グラフをもとにした問題が多く出題されます。そのような問題では、必ず問題文や表・グラフのなかに、解く鍵やヒントが含まれています。それらを速く的確に読み取る力を身につけておくことが必要です。そのためにも、日ごろから問題文は注意深く最後

まで読み、何が答えとして求められているのかを見抜く力を養っておいてください。また、理科で学ぶ用語や単位などは正確に理解し、特に用語は正確な漢字で書けるようにしておいてください。自然や身の回りの科学事象に対して、ふだんから興味を持って観察するとともに、理科で学習した知識が生活のなかではどのようなところで応用されているかなどにも、関心を持って学習を進めていきましょう。

社会

【地理分野】地理はその地域の特色をとらえる分野なので、学習するときには地図や写真をよく用いて、地名などは必ず場所を確認するようにしてください。地理に関する事柄について、ことばを覚えるだけではなく、統計や資料などを読み取り、幅広く理解できるように学習してください。

【歴史分野】歴史は時代ごとの特色をとらえましょう。出来事の原因・結果・影響などの流れを理解したうえで、覚えましょう。また、出来事が起きた時代や時期をしっかり意識して学習をする習慣をつけましょう。歴史分野にかかわるさまざまな資料に目を通しておくことも重要です。

【公民分野】ふだんから社会の様子、世界の出来事に関心を持ってほしいため、必ず時事問題を出題しています。そのための基本となるのが教科書の学習です。「政治のしくみ」「憲法」「世界のなかの日本」など、幅広く学習しておいてください。

【全般】どのような問題に対しても、正確なことばや文章で答える習慣をつけてください。教科書で漢字を使って書かれていることばや人名などは、ひらがなやカタカナで書いてはいけません。また、文章で答えるときは、話しことばにならないように注意しましょう。解答するときは時間配分にも気をつけましょう。

同志社女子中学校

算数

幅広い分野から出題します。簡単な問題から難しい問題の順に並べているとは限りませんので、できる問題や得意な問題から解くように心がけてください。また、求め方を書くよう指示がある問題については、答えだけを書くと得点につながりません。その問題に限っては、たとえ最終的な答えが正しくなかったときでも、途中まで求め方を書いていれば部分点が獲得できる可能性があります。少しでもわかったことがあれば書き残すようにしましょう。前年度の後期入試の求め方を書く問題では、約 9 割の受験生に何らかの得点が与えられました。ふだんから、答えだけが合っているかどうかではなく、求め方や考え方が正しくできているかも確認するようにしてください。また、答えだけを書く問題については、単位などを含めて問題文の指示にふさわしい答えになっているかどうかを確かめるようにしてください。問題文をきちんと読んで理解できるよう、読解力や計算力をつけて臨みましょう。

国語

例年、文学的文章 1 題、説明的文章 1 題の計 2 題を出題しています。文学的文章にはエッセイなども含まれているので、ふだんから意識的にさまざまなジャンルの文章を読むように心がけてください。文学的文章では「ある場面がどのような状況なのかを問う問題」「登場人物の心情を問う問題」がよく出題されます。どちらも書かれている内容に基づいて、文章全体から読み取ることを意識してください。「説明的文章」では「内容の理解を問う問題」「全体の構成を問う問題」が多く出題されます。また、説明的文章の問いのなかに「接続詞」を問う問題もありますが、その正答率はほかの問いと比べて低いことが多いです。文章を読む際には、接続詞の意味を踏まえて、文と文のつながりを意識するようにしましょう。漢字の書き取り問題は楷書でていねいに書くこと。本文から抜き出して答える問題は誤字脱字があると減点対象になりますので、注意して書き写しましょう。

理科

毎年、物理・化学・生物・地学の 4 分野すべてから必ず出題しています。どの単元もまんべんなく学習しておくことに加えて、新聞やニュースなどで取り上げられた時事的な事柄に関する知識も身につけておきましょう。教科書に出てくる基本的な用語は漢字で書くようにしてください。また、実験データから規則性・法則性を見つけ出したり、与えられた条件から自分で考えたりするような科学的思考力を問う問題も頻繁に出題しています。このような問題では、問題文や与えられたデータをうまく活用する力が問われています。過去問演習を通して、自分の知らない現象が題材の問題であっても、正確に文章を読み取り、理解する力を養っておいてください。対策として、科学にまつわる本や記事を読み、正しく解釈する練習をしておくことも効果的かと思います。ただ暗記をするだけの勉強ではなく、現象の仕組みを理解し、説明できるような勉強を心がけて臨むようにしましょう。

社会

歴史・地理・公民の 3 分野から幅広く出題しています。おおむね歴史分野 4 割、地理分野 3 割、公民分野 3 割の配点となっています。全般的な出題傾向は例年と大きく変わりません。例年、小学校の教科書の範囲からの出題を心がけています。教科書の本文だけでなく、地図やグラフ、年表や写真なども学習しておいてください。また、時事問題が出題されることもありますので、日ごろから新聞やニュース番組を見るように心がけ、日本や国際社会の諸問題について、関心を持つようにしましょう。解答のうち 2〜3 割程度が、語句の記述問題となっており、漢字・カナ・字数などの指定がある場合は、指定外の解答は不正解となります。また、小学校で学習する教育漢字以外でも、社会科の基本用語は漢字での読み書きができるようにしておきましょう。近年、分野にかかわらず、資料の読み取り問題が出題されることが多く、与えられた資料から必要な情報を正しく読み取る力が問われています。

開明中学校

算数

例年、全日程とも、1は計算問題、2は小問集合、3～5は文章題という形式で出題しています。また、1と2で配点の約半分を占めていることからもわかるように、全体的に基本から標準レベルの出題を心がけています。特に、平易な計算問題を確実に解く力を重視しています。文章題は難問・奇問を避け、規則性を読み取ったり、グラフや図から考えたりするなど、理論的に物事を考えさせるような問題を出題するようにしています。そのため、問題文が長いのが特徴です。文章題のなかに必ず図形に関する問題を出題します。

国語

説明的文章から1題、文学的文章から1題の計2題を出題します。各設問の内容は、漢字・語彙・空欄補充・指示語や傍線部の理由を問う記述問題・文章の要旨を問う客観（記号）問題などで、基本的な国語力を問うものばかりです。説明的文章なら、文章を書いてあることばどおりに、自分の意見を挟まずに正確に読み取る力を、文学的文章なら、登場人物の心情を表現や風景描写などの記述から、正確に読み取る力を身につけましょう。そのためには、ふだんから本を読み、たくさんの問題を解くことが大切になります。また、わからないことばに出合ったら辞書を引くなど、ことばにも慣れ親しんでおきましょう。

理科

出題の傾向と分量は例年どおりで、難問・奇問はなく、標準的な問題を出題するよう心がけています。難問・奇問は出題しません。みんなの知らないことを知っているということではなく、大事なところや勉強しておかなければならないところを押さえているかどうかを問うようにしています。また、単位は解答欄にあらかじめ入れてあります。受験生に求めていることは、「基礎的な知識を覚えていること」「実験結果から、関係性を見つけること」「関係性を用いて、数値計算ができること」「実験結果を表やグラフなどにまとめること」「自分のことばで説明できること（記述力）」です。以上の点を意識して、日ごろの学習に当たってください。

社会

地理的分野・歴史的分野・公民的分野のいずれも、基本的な内容を中心に、多少の幅を持たせて出題しています。語句の記述だけでなく、人物と事件、自然と産業、関連事項や因果関係などを含めた基本的な理解が定着しているかを問う問題が多くなっています。問題文を含めてグラフ・地図・表・図版などの分量が多いことから、限られた時間で分量のある問題をていねいに読み取って解答することが求められます。これらのことを念頭に置いて、基本的な知識を身につけるとともに、さまざまな形式の問題をこなしておきましょう。問題数は45～50問で、配点は歴史的分野が20点、地理的分野と公民的分野が各15点の50点満点となっています。

関西学院中学部

A 日程は、午前に 3 教科の筆記試験（国語・算数・理科)、午後に面接を行います。B 日程は、午前に 2 教科の筆記試験（国語・算数）を行うのみで、面接はありません。A 日程と B 日程で難度の差はありません。また、難度や出題の傾向なども、原則として、前年度までと変わりません。また、昨年度まで実施されていた A 日程午後の面接は今年度より廃止します。

算数

計算問題、答えだけを求める穴あき小問、記述を求める大問とで構成されています。

国語

物語的文章と説明的文章の長文二つで構成されています。文中のことばを抜き出す問題が多く、書き取りについても、小学校で学習する教育漢字に限定しています。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野をバランスよく出題します。多くは選択問題で、50 問程度となります。小学校の教科書の範囲に沿っています。

金蘭千里中学校

算数

基礎から標準レベルの問題を幅広い分野から出題しています。計算、文章の読解、図形の計量、数え上げ、規則の発見、工夫の仕方などの力を、典型的な中学受験問題をたくさん演習することによって身につけてください。なお、前期 A・E の一部では、記述式の問題もありますが、今までどおりの学習のなかで解法の理解を大切にすることで対応できるものになっています。

国語

国語の試験は、前期 A・E、中期 B・J、後期 C で実施されます（A と E の国語は共通問題です。また B と J の国語も共通問題です)。いずれの試験でも文学的文章と説明的文章を主に出題します。

各試験の特徴は以下の通りです。前期 A・E では、表現力を試す記述式の設問に加えて、実用的な情報の読解の問題も出題します。中期 B・J では、記号選択式の問題を中心に、短文読解問題も出題します。後期 C では、記号選択式の問題を中心に、日本語の聞き取り問題も出題します。

いずれの試験も、基本的な読解力、漢字・語句の知識などを試すという点では共通しています。日ごろから語彙力を高める努力をし、文章を客観的に読み取っていくトレーニングを積んでください。

理科

理科で使う用語や、自然現象に見られる規則性は、知識として暗記するだけでなく、その意味を理解して使えるようにしておきましょう。日ごろから身近な自然現象に関心を持ちながら学習することが大切です。また、問題文を正しく読み取る力を養い、計算も正確にできるようにしましょう。計算式の意味はきちんと理解して、順序立てて考えられるよう心がけることも大切です。なお、計算問題は通常、分数・小数のどちらで答えるかを指定します。6 年生の 3 学期に学習する範囲は、考え方などに配慮して問題を作成します。

社会

30 分という短時間の割には問題数が多いので、問題文を慎重に読みつつも、てきぱきと解答していく必要があります。また、必ずしも大問の 1 から始めなくても、地理・歴史・公民のうち自分の得意な分野から手をつければよいと思います。地理では、グラフや表の読み取りに慣れておくこと、歴史では、「人物名－業績－時代」をセットで覚えておくことが大切です。公民では、毎年一つのテーマに沿って出題していますが、時事的なことも視野に入れてください。そして、特に指示がなくても、基本的な事項は漢字で正確に書くようにしてください。細かい「とめ・はね」までは見ませんが、乱雑な字は減点することもあります。

高槻中学校

算数

試験では、正確で、高い計算処理能力と、典型的な問題を確実に解ける学力が必要です。さらに、文章読解力および知識を複合的に活用する能力を問う問題を出題します。図形では、平面図形や立体図形を的確に認識する能力を見る問題を出題します。2018 年度入試からは、記述式問題も出題しています。

国語

漢字の書き取りは、教育漢字の範囲からの出題です。慣用的な表現を中心にした基本的なことばの力を問う問題もあります。また、説明的な文章を正しく読み取る力、文学的な文章を人物の心情に即して正しく読み取る力を見る問題を出題します。与えられた文章の要点、理由や人物の心情を記述する設問があります。

理科

文章を読み、そのなかに出てくる新しい事柄を理解し活用する能力を問う問題もあります。また、時事問題への興味と関心、自然観察の経験や、小学校で理科の学習に真面目に取り組んだ経験を重視する問題を出題します。さらに、新学習指導要領に基づいた新しい学力観である「思考力・判断力・表現力」を測る問題もあります。

社会

地理・歴史・公民のすべての分野で必要なのが、社会科の基礎的知識とその応用力、思考力です。社会的事象への興味と関心を広く持つことが大切です。また、地図・統計・資料・写真などを分析する力を問う問題も出題します。歴史では、歴史への興味、史料の解釈、文章読解力を問います。時事問題への関心を問う問題もあります。

英語

筆記（40 分）100 点、リスニング（30 分）60 点ともに、英検®2 級程度のレベルとなります。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

帝塚山中学校

算数

最初に小問集合があります。ここでの失点は大きな痛手となりますので、正確で速い計算力を身につけ、確実に得点できるようにしておいてください。また、解きやすい問題から手をつけることも重要です。時間配分を間違えると、試験時間中にすべての問題に当たることができなくなってしまいます。規則性の問題、水の量の変化の問題、点・図形の移動の問題は頻出です。2012 年度までは、英数型と特進型の二本立てで作問をしていましたが、2013 年度の入試からは英数型に一本化しました。後半の大問に進むほど難度を上げるというのが、1 次 A・1 次 B・2 次 A・2 次 B に共通した出題方針です。

国語

長文を 2 題出題します。大問[1]が評論文、大問[2]が物語文というのが大体の傾向です。問題用紙は 8 枚から 10 枚に及びます。試験時間内に読解するためにも、長めの文章を読む訓練を積んでください。20 字程度の抜き出しや、50 字程度で説明する問題は頻出です。記述の際は、誤字や脱字に気をつけましょう。漢字の書き取り、読みの問題は、例年必ず 15 問ほど出題しています。語彙力を強化し、漢字の練習もしっかりとしておいてください。

理科

試験時間が短いので、素早く、正確に答えを導けるかがポイントになります。問題によって難度には差がありますので、試験が始まったら、まず問題全体を確認して、解きやすいと思うものから解答していきましょう。毎年、物理・化学・生物・地学の各分野からまんべんなく出題します。苦手な分野を作らないようにしてください。

内容は、知識問題・計算問題・実験考察問題です。まずは、教科書に載っている生物の名前、実験の概要、実験器具の名称や使い方などを確認しておいてください。実験考察問題は問題文が長いこともあり、実験設定が複雑な場合もあります。しっかりと問題文を読んで、実験の内容を理解し、まとめることができるようにしておきましょう。また、日ごろから計算力をつけ、短時間でもミスのない解答を心がけましょう。ふだんの学習の成果が出るような問題となっています。まずは教科書をしっかりと読み込むことから始めましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野からまんべんなく出題します。重要な用語は漢字指定となっていますので、正しい漢字で解答できるよう練習しておいてください。地理分野では地図帳も出題範囲ですので、重要な地名や位置を、地図帳を使って確認してください。歴史分野では、重要な出来事がいつ起きたのか、人物がいつごろ活躍したのか、その順序を押さえましょう。それと同じ時代に、ほかに何があったのかといった視点からの整理もしておいてください。公民分野では、時事問題を出題することもありますので、最近の世界の動きにも目を配っておきましょう。なお、分野別の出題のほかに、融合問題を出題することもあります。

入学試験作問上の留意点

①出題の形式は、本校のこれまでの入学試験問題の形式に準ずる。

②問題の構成は、基礎的な事柄から発展的な事項へと掘り下げていくように工夫する。

③出題の難度は、平均点を満点の 65%前後になるようにする。

同志社中学校

算数

基本的な事項を確認する問題から、問題文を理解し、思考を積み上げて解答を導き出す力が必要な問題までを出しています。出題形式は例年と同様です。基本的な計算力や学習内容をしっかり身につけてください。ただし、公式や解法を丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」を自分で考え、発見する学習を期待します。“1 あたり量”（速さ、人口密度など）は「m／秒」「人／㎢」のように、「／」（パー）を用いて表記しているので、注意してください。

国語

さまざまな文章を読み取る力を見ることと、小学校で学習する言語事項（文法・漢字など）の知識を見ることを主眼に置いて出題しています。日ごろからあらゆる分野の文章に接して、内容を把握する力を身につけてください。小学校での学びを大切にして、幅のあるものの考え方を身につけましょう。

奈良学園中学校

算数

大問が 6 題で、大問1・2は基本問題が中心。大問3～6は標準から応用まで、さまざまな難度の問題となっています。受験生の真の学力を試すことができるように、基礎的で平易な問題から少し応用力を必要とするやや難しい発展問題までを、広い範囲から出題するようにしています。大問が小問に分かれている場合は、最初の問題をヒントにして後の問題を解くことが多いので、つながりを意識して解くようにしましょう。

国語

例年、大問 3 題から成ります。大問1は物語文からの出題で、登場人物の心情や、言動の理由を問うものが中心となります。大問2は、説明文（または随筆）からの出題です。論理の展開を正しく読み取り、筆者の主張を正確に把握させることを狙いとしています。大問3は、「漢字」や「ことばの知識」などを問う問題です。よく目にする表現、耳にすることばなどには、日ごろから注意を払っておきましょう。漢字の書き取りに限らず、解答はていねいな文字で書くことを心がけましょう。誤字・脱字、句読点や文末表現の不備などは、減点の対象となります。

理科

大問は 5 題です。小学校の教科書を十分に理解していることを踏まえて、基礎的な問題から応用的な問題までを出題します。物理分野・化学分野・生物分野・地学分野から各 1 題と、各分野からの小問集合問題 1 題です。教科書などでは性質しか述べていないことでも、計算問題として出題することもあります。また、図を描いて答えてもらうこともあるので、ふだんから図や写真などもよく見ておくことが必要です。さらに、教科書だけにとどまらず、日常の身の回りの理科的な事柄や、新聞などで報道された科学に関するニュースなどにも関心を持つようにしておくことも大切です。

社会

地理・歴史・公民の各分野にわたる基本的知識を身につけていること、それが単に用語を覚えているだけではなく、理解を伴ったものとなっていることを試す出題をしています。歴史的分野では、単に事項を覚えるだけでなく、歴史的な流れをつかみながら教科書をしっかり勉強しておいてください。地理的分野では、教科書だけでなく地図帳もよく見るようにしましょう。また、新聞やテレビのニュースなどで、最近の世の中の動きにも注目するようにしてください。公民的分野では、教科書を中心として、戦後から現代までの社会問題を学習しておいてください。日本国憲法の主な条文にも目を通し、地理と同様、新聞やテレビのニュースから世の中の動きについて学習するようにしてください。最後に、漢字で書くべき用語は漢字で答えさせますので、ふだんから漢字で覚えるように心がけてください。

西大和学園中学校

算数

大問は 4 題です。1は日ごろの努力の成果が表れやすい基本から標準レベルの問題を 7 問程度出題します。分野は計算・逆算、数の性質、場合の数と理論、規則性・速さ・割合などに関する文章題です。2では同じく基本から標準レベルの図形に関する問題を 5 問程度出題します。3では1・2と同じ分野で、やや難度の高い標準から応用レベルの文章題を 5 問程度出題します。4は調査力・整理力・推論力・表現力を複合的に問う問題です。
こうした問題を通して見たいのは、次の 4 点です。①迅速かつ正確な計算力に裏打ちされた、確実性の高い、効果的な方法を選択できる能力、②基本的な解法や数理的論法の習得度、③問題の設定や条件を正しく理解し、解答に必要な形に再構築できる能力、④具体的に例を考え、試行を繰り返すことで、問題の根幹となる規則性や原理を導き、正答につなげる能力。正答率の高い問題でのケアレスミスをなくし、適正な時間配分ができるように練習することが大事です。問題文が長い問題や複雑な処理を含む問題でも、粘り強く、最後まで考える習慣をつけるようにしましょう。

国語

大問 3 題の構成で、説明的文章、文学的文章、そして段落整序問題などが出題されます。漢字の書き取りにおいては、画数が変わるような書き方は原則として認められません。崩し字や続け字は避けて、正確な画数で書くようにしてください。
読解力については、本文全体を正確にとらえることが重要です。単に周辺の情報を抜き出すだけでなく、筆者が伝えようとしているメッセージや意図を深く読み取る力を求めます。
また、字数の多い記述問題では、主述関係や修飾関係の誤りが見受けられます。過去問に取り組む際には、ぜひ第三者に添削してもらってください。そうすれば、より正確な記述力を養うことができるでしょう。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から大問 1 題ずつを出題します。配点は、各分野とも 25 点ずつです。基本的な知識を問う問題、正確な計算力を試す問題、実験・観察に関する操作についての理解を問う問題、実験・観察の結果や現象に対する考察力を試す問題、時事的な事柄に関する問題などがあります。小学校で学習した内容を十分に理解しているか、思考力や理科に対する興味があるかを確かめる内容にします。比較的解きやすい問題から順に並べるようにしています。時間配分をよく考えて、基本的な問題でミスをしないように、解答方法に関する指示を守って解いていくようにしましょう。指示どおりでない解答には、内容が合っていても得点を与えません。約分していない分数や漢字の間違いなどは減点するので、注意が必要です。一問一問ていねいに解き、特に計算問題には、落ち着いて取り組むことが大事です。

社会

地理的分野と歴史・公民分野をほぼ同じ割合で出題します。主に次の三つの能力などを測る

ために、入学試験を作成しています。①教科書に基づいた基本的な知識とそれらを組み合わせて考えることができる力、②地図・統計・写真、その他の資料を多面的・多角的に読み取ることができる力、③現在、世の中で起きていること（時事問題）への興味や関心です。また、分野ごとの学習の注意点としては、地理的分野では、まず教科書内容の基本知識を完璧にし、覚えるだけでなく説明できるようにしてください。また、地形図のルールや読み取り方を習得しておくと高得点につながりやすいです。歴史的分野の問題は、教科書に載っている基本的な事項を押さえておけば解ける問題になっています。主要な歴史的な事象については、時間軸に沿って理解しておくと、時期で正誤の判断をつけることができるでしょう。今年度からは説明する問題を歴史分野でも積極的に出題する予定ですので、説明できるくらい深く理解しておいてください。公民的分野では、政治や国際社会について教科書に掲載されている事項を習得してきてください。また、時事問題の観点から出題することも多いです。

雲雀丘学園中学校

算数

中学校で学習する数学に対応できる基礎学力を十分に備えているかどうかを確認するために、標準的な問題を中心に、各分野から幅広く出題しています。問題文の読解力を重視し、内容を適切に把握する必要がある文章題も出題しています。計算を正確に実行する能力は、算数のあらゆる問題で必要になります。計算練習を繰り返しましょう。特に、かっこを含む式や、分数・小数の混じった式の計算問題では、途中の式を残し、計算の過程をたどれるようにしておくとよいでしょう。文章題は算数の学習の中心を成すものです。基本的な問題を偏りなく練習してください。その際、解法のパターンを暗記し、それに当てはめて答えを求めるようなことはせず、問題文をしっかりと読み、内容を把握し、線分図・表・グラフなどを活用して情報を整理し、ゆっくりと考えて解答を導くようにしましょう。

国語

大問として、小説と説明文をそれぞれ 1 題ずつ出題します。長文に慣れておく必要があります。漢字については毎年、慣用句・文法といったことばに関する問題も比較的出題されやすいです。日ごろからことばを意識して学習してください。読解問題では、登場人物の心情や指示語の確認、それらを説明する記述などを出題しますが、文章中に必ず解答につながるヒントがあります。ことばをていねいに読み進めていくことを大切にしてください。読みを深める問題も出しますが、基礎力の組み合わせで解けるので、基本的な解答の仕方を徹底して練習することを心がけてください。

理科

教科書に載っている基本的な用語は、正確に覚えることが大切です。教科書に漢字で書いてある用語は漢字で答えてください。基本事項での得点率と合否との関係は明確に出ています。難易を問わずどの問題も、問題文を読む力が重要です。基本的な事項から解答を導く力をつけておいてください。また、実験問題の出題が多いので、実験内容を確実に押さえておく必要があります。物理・化学・生物・地学の 4 分野からバランスよく出題するので、まんべんなく学習するように心がけてください。

社会

都道府県名や時代名など、教科書に漢字で書かれている用語は、難しいものであっても漢字で書けるようにしましょう。教科書や問題集で重要とされている部分を中心に、まんべんなく出題します。特定の分野に偏った勉強はお勧めしません。読解力の必要な問題は、問題文を最後までしっかりと読む練習をしましょう。地図やグラフ、表を使った問題も多く出題されます。がんばってください。

洛南高等学校附属中学校

算数

正確に素早く処理できる計算力を身につけることが大切です。毎日の練習で少々長い計算にも耐えられる力を養いましょう。その際に、工夫をすることで簡単に計算できる方法がないかを考えてください。工夫し、考えながら問題を解くことで、さまざまな問題に対応できる応用力も身につけることができます。また、文章題を解くときには、論理的な展開を意識しながら、筋道を立てて考えていくことが重要です。自分がどのように考えたかを順序立てて式に表し、ていねいな解答を作るよう心がけてください。

国語

第一に、まとまりのある文章（意見文・物語文）について、さまざまなタイプの問題を出題します。問題をてきぱきと、どんどんこなしていく能力が必要です。第二に、各設問が出題された意図を正確に見抜き、本文に根拠を求めながら解答を正しく選択したり、記述したりする能力が問われます。解答の文末を「…すること」とするか、「…から」とするかを判断する力や、誤字・脱字のないように、ていねいに答案をまとめていく力が必要です。第三に、言語感覚が問われます。ことわざ・慣用句・外来語や特殊で味のある言い回しなどについても、ふだんから高い興味や関心を持ちながら文章を読む習慣を身につけてください。

理科

わたしたちの身の回りには、さまざまな自然があふれています。動植物もたくさんあり、いろいろな天文現象・気象現象も起こっています。しかし、ふだん意識してそれらに目を留めることはあまりありません。まずは、身近な自然をおもしろいと感じることができる好奇心を持って、身の回りの物事を見つめ直してほしいと思います。さらに、そのような自然の「しくみ」にも興味を持って、身近なことを題材とした実験結果の図やグラフの読み取り、起こるであろうことの予測、そして計算などができるように、学習を進めていってください。

社会

これまで起こった出来事が、現在起こっている出来事につながっています。そして、現在起こっている出来事がわたしたちの世界をつくっています。ですから、一つの用語をただ暗記するのではなく、その用語の背景や用語どうしのつながりを把握する学習を心がけてください。用語を覚えて終わりではなく、その意味や背景、関連する内容をほかの人に説明できるかどうかが大切です。史料問題やグラフ・統計問題も出題するので、資料集や地図帳なども見て、それらを読み解くトレーニングも必要です。また、簡単な時事問題も出題します。ふだんから新聞・テレビなどを通じて、最近の日本や世界で起こっている出来事にも広く関心を持つようにしましょう。

海陽中等教育学校

基礎的な内容の問題では、一定の解答速度が求められます。また、文字数や小数点の表記など、解答条件についての注意を見逃さず、問題文の指示に沿って、ていねいな字で答えてください。また、漢字で習った用語は、漢字で書くようにしましょう。

算数

問題を解くときは、内容を正しく理解し、計算だけでなく、説明までできるように学習しましょう。問題文をよく読み、あきらめずに手を動かし、粘り強く考えることが大切です。

国語

原則として、論理的文章と文学的文章の大問 2 題で構成されています。記述・選択・空欄補充などをバランスよく出題します。一定以上の文章量があるため、素早く、的確に読めるようにしておきましょう。また、どの入試でもやや長めの記述問題が出ます。読み取った内容を、条件に合わせて記述できるように練習してください。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野からまんべんなく出題します。計算問題や記号選択問題に加え、記述やグラフを書く問題などを出題します。周囲の自然現象や実験・観察に興味を持ち、原因や原理を追究する習慣をつけましょう。また、実験や観察のデータから考察する力、問われていることを読み取る力も必要です。

社会

地理・歴史・公民の各分野からまんべんなく出題します。土台となる基礎知識をしっかりと身につけたうえで、理解力・推察力を養いましょう。自分の知っている事柄について、わかりやすく伝えられるようにしてください。

英語（帰国生入試）

記述式試験と面接試験を行います。記述式試験では、英文の内容や意味を英語または日本語で説明する問題も出題します。日ごろから幅広くさまざまな英文を読み、その内容を自分のことばでまとめる習慣をつけましょう。また、自分の考えや体験を英語で話したり、正確なつづりのわかりやすい英文で書いたりできるよう、練習をしてください。

ラ･サール中学校

算数

基本的計算と小問で 3～4 割の配点です。残りは大問が 3～4 題です。大問は文章問題、平面図形、立体図形、場合の数などから出題し、1 題は途中の考え方を書かせる問題にしたいと思っています。計算力をつけるための十分な練習をして、いろいろな工夫もできるようにしておくとよいでしょう。文章題では問題文をよく読むようにしましょう。

国語

設問で問われていることを的確に押さえましょう。答えやヒントは必ず問題文中にありますが、単に文中の表現をつなぎ合わせただけの解答では、意味の異なったものになることがあるので注意しましょう。大問は 3 題です。2 題は読解問題で、1 題は漢字や語句についての問題です。100～150 字で答える記述問題を必ず 1 問は出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から、大問をそれぞれ 1 題ずつ出題します。理科の学習では、思考力・観察力・計算力が必要です。また、いろいろな物事に対して興味を持つことも重要です。日ごろ勉強していることを使い、身の回りの自然現象について考えるように心がけてください。

社会

歴史は出来事の背景・内容・結果と、次の時代への影響を理解することが大切です。地理は日本地理が中心なので、地域の自然（地形・気候）と人々の営みとの関係をとらえる学習をしてください。政治・経済は仕組みを把握することが大切です。また、新聞やテレビを通じて、日本や世界の動きにも注意するようにしましょう。答えは、漢字指定のものは正しい漢字で答えること。ただし、それ以外でも教科書に漢字で出てくるものは、漢字で答えられるようにしておいてください。